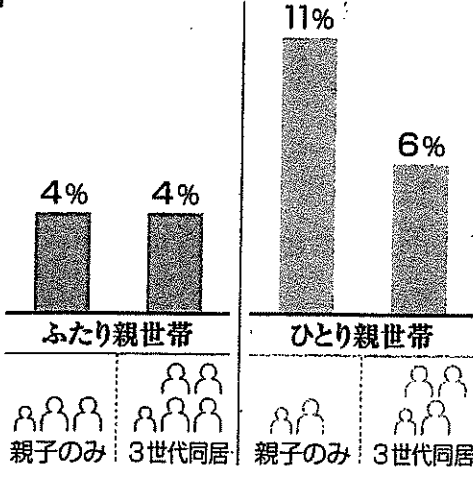


国機関調査

母子世帯のシングルマザー

母親が心の不調を抱える割合
※国立成育医療研究センターによる

9人に1人 心の不調



孤立防ぐ支援を

1人で乳幼児を育てる母子世帯のシングルマザーの9人に1人がうつ病など心の不調を抱えていることが、国立成育医療研究センター（東京）の調査で分かった。自分の親と同居する3世代世帯のシングルマザーの1・8倍、父親もいる世帯の母親の2・8倍で、研究班は「自助努力を求め

国民生活基礎調査（2016年）のデータを活用。5歳以下の子がいる全国約1万9千世帯の母親を対象に分析した。

調査結果によると、心の不調を抱えているのは、同居する親のいないシングルマザーが11%で最も高く、3世代同居のシングルマザー6%の約1・8倍。父親もいる

るのは現実的ではない。行政側から支援を届ける取り組みが必要だ」と指摘している。

親世帯は、親の同居の有無にかかわらず4%だった。1人で子育てするシングルマザーについては、「相談したいが誰にも相談できない」と答えた割合が最も高かった。喫煙、飲酒の頻度が「毎日」とした割合も最も高く、「睡眠時間が5時間未満」も15%と、他のグループより高かった。

同センター研究所社会医学研究部の加藤承彦室長の研究班が、厚生労働省の

加藤室長は「親と同居していないシングルマザーは社会的に孤立しやすい。妊娠届など、自治体を持つ情報を活用した積極的な支援が求められている」としている。